



報告

宇宙カフェ継続の秘訣と展開 ―宇宙カフェ 50 回を振り返って―

The Factor of Continuation of “Cosmic Café” and its Future Development
-Look Back on Fifty Times of “Cosmic Café”-

後藤 千晴¹，吉住 千亜紀^{2,3}

¹ 和歌山大学地域連携・生涯学習センター，² 和歌山大学観光学部観光教育研究センター

³ 和歌山大学宇宙教育研究所

2011年7月から始まった「宇宙カフェ」が2015年9月で50回を迎えた。研究者と一般市民が気軽に交流する場をつくりたいとはじめた小さな「宇宙カフェ」が、地域のコミュニティへと発展しながら長く続いてきた経緯や運営方法について、これまでの50回を振り返りながら紹介する。

キーワード: サイエンスカフェ，宇宙カフェ，地域貢献，学生教育，コミュニティ形成

1. はじめに

宇宙カフェとは、宇宙関連分野の研究者と一般市民が、飲み物を片手に気軽に宇宙に関する話題について語り合うコミュニケーションの場である。本学では2011年7月から和歌山大学まちかどサテライト^[1]（当時）と和歌山大学宇宙教育研究所主催で、テーマを「宇宙」に絞った和歌山大学独自のサイエンスカフェ「宇宙カフェ」を実施してきた。和歌山大学が保有する知的財産を地域に還元し、「地域の知の拠点」として地域住民、自治体、産業界、市民活動団体などの大学への信頼と存在価値を高めることができる取り組みとして始まり、2012年度からは和歌山市との連携事業の一つとして展開している¹⁾。

2. 話題提供・運営方法

運営は主にまちかどサテライト職員（和歌山大学特任職員1名，和歌山市役所職員1名）と，宇宙教育研究所所属の教職員で行っている。主な業務は①話題提供者の調整，②会場コーディネート，③広報・予約受付，④会場運営，⑤開催報告に分けられる。①については筆者である吉住が行い，②～⑤についてはまちかどサテライト職員が行った。

2.1 話題提供者（ナビゲーター）

話題提供者は主に宇宙教育研究所に所属する教職員に依頼したが，時には学外のプロジェクト関係者や専門家にゲストスピーカーとして依頼することもあった。テーマは各自の専門（得意）分野から設定してもらった。時期により特に取り上げたいトピックスがある場合にはその専門の教員に依頼することもあったが，通常は前後のテーマが似かよらないよう工夫した。

2.2 会場

会場は当初，和歌山大学まちかどサテライトの教室を使用していたが，サテライトの移転にともない主に中心市街地の喫茶店やカフェを会場として借りた。テーマや必要機材に合わせて大学キャンパスや地域連携・生涯学習センターで実施する場合もある。会場の条件は①20人程度がワンフロアに入ることができること②なるべく中心市街地にあること③ドリンク提供ができることなど。これまで17店舗を会場として借りてきたが，いずれの店舗でも「大学が来てくれてうれしい」「人が集まるイベントはいい」など好意的な意見が多かった。

2.3 広報

広報は和歌山大学ウェブサイトや関連施設でのチラシ掲示の他，和歌山市との連携事業になってからは，市役所や支所，コミュニティセンター，図書館や美術

館、博物館など、市が管理する施設にチラシを置いたり、和歌山市のウェブサイトやツイッター、Facebookなどで知らせたりすることができるようになり幅が広がった。また中学生以上が対象であるので、市内の中学校や高校にもチラシを配ることができるようになった。みさと天文台（和歌山県紀美野町）友の会とも協力し、相互にイベント告知を行っている。

2.4 会場運営

当日の会場運営は、当初はまちかどサテライト職員だけで行っていたが、回を重ねるうちに宇宙に関心を持った学生がアシスタントとして参加するようになった。学生アシスタントは会場設営や受付、ドリンクオーダーを担当した。また学生アシスタントが居ない場合などは、参加者に協力をお願いすることもあった。通常の公開講座であれば、会場は運営者側がすべて整えて参加者を待ち、参加者は「お客さん」として行くだけである。だが宇宙カフェは、話題提供者の話を聞くだけでなく双方向のコミュニケーションを重視する。もちろん話題提供者だけでなく参加者同士のコミュニケーションも重要であるため、カフェが始まる前に参加者が一緒に何かする時間がある方がよいと感じたため、会場準備に参加者を巻き込むことにした。このもくろみは存外うまくいき、「参加者が一緒に作るカフェ」として参加者の主体性を引き出す効果があったと感じる。

2.5 開催報告

毎回開催後1週間以内にアンケートを集計し、話題提供者へフィードバックを行った。まちかどサテライトのウェブサイトには当日の様子を掲載し、それに合わせて次の予告を掲載するようにした。

3. 実施内容

宇宙カフェは2011年7月から月に1回ペースで開催し、2015年9月に50回を迎えた。50回以降は不定期開催としているが、現在まで計52回実施してきた（2016年1月現在）。表1にテーマ一覧を示す。50回までのテーマおよび内容については50回記念事業時に発行した資料に詳しい^[2]。本稿ではカフェから派生した企画やコラボレーション企画、50回記念講演などについて紹介する。

3.1 お月見カフェ

和歌山大学では2003年に教育学部で初めて中秋の

名月を愛でる「観月会」を開催した。2005年からは会場を松下会館（和歌山市西高松にある元経済学部学生会館）に移しながらも継続的に開催し、天体望遠鏡で満月を眺める観望会や茶会、「観月」「宇宙」をテーマとした和歌山大学の研究成果の発表など、例年200人以上が参加する「地域の行事」として認知されるようになった。

2009年以降は観光学部科学文化ゼミ（尾久土・中串研究室）が中心となり、学生が企画、交渉、運営をより主体的に行い²⁾、さらに2014年以降は地域貢献に専心し実務での実践力を養うことを目的に、会場を中心市街地に移して実施した。宇宙カフェの形式を採用し、カフェやバーなどを会場として、会場ごとに担当学生がテーマを設定、企画・運営を行う。同日同時刻に数会場で行われるカフェイベントを総称し「お月見カフェ」と名付けられた。2014年はキャンドル、宇宙人、サイエンス、音楽、お月見団子をテーマに5店舗でのカフェイベントと南海和歌山市駅前と京橋の2会場での観望会を実施。宇宙カフェもお月見カフェの一会場として学生の企画を元に実施した。2015年は「月×〇〇」をコンセプトに、スペースアート、宇宙人、絵本、プラネタリウム、映像、音楽をテーマとして6つのカフェのほか、和菓子（お月見まんじゅう）作り体験、京橋での観望会が実施された。



図1 お月見カフェの一企画「宇宙人カフェ」(2014)

3.2 コラボレーション企画の実施

近年は宇宙×〇〇という発想でコラボレーション企画を実施。季節や時事ネタを重視し、野外で星空と夏の夜を楽しむ企画（2014.7.25）、和歌山大学紀州経済史文化史研究所企画展「移民と和歌山」に合わせた移民の歴史と移民が見たであろう海外から見る星空の話

(2015.6.23)、和歌山城内にある動物園「和歌山公園動物園」100周年を祝った企画(2015.8.18)など普段とは違う切り口から宇宙の話題を展開した。各回とも他の回に比べ初参加率が高くなっている。参加者からは好意的に受け入れられており、宇宙以外の分野に触れる機会を提供するとともに、宇宙に興味がない(この場合、野外や歴史、動物に興味がある)人に、宇宙に触れてもらう機会を提供し、新たな興味を喚起することができたと考える。



図2 コラボ企画「宇宙カフェ×歴史かふえ」

3.3 50回特別記念講演会

50回の節目となる2015年9月には、これまでの総括として宇宙カフェと特別講演会を開催した。宇宙カ

フェは小惑星探査機「はやぶさ」の地球帰還に関するイベントがきっかけで始まったことにちなみ^[3]、ゲストスピーカーに「はやぶさ2」のミッションマネジャーである宇宙航空研究開発機構(JAXA)の吉川真氏を招いた。講演会場は収容人数と宇宙に関係のある場所ということで和歌山市立こども科学館のプラネタリウム室を借りた。当日の参加者は小学生から大人まで約80人。和歌山市内からの参加が約7割であったが、近隣市町村以外の県内参加者や県外からの参加者もいた。子どもだけでなく大人も熱心に聞き入る姿が見られ、幅広い世代で宇宙への関心が高いことが伺えた。



図3 50回記念講演会

表1 これまでの宇宙カフェテーマ一覧

回	開催日	ナビゲーター (話題提供者)	テーマ	参加者数
1	2011.7.25	山浦 秀作 ^a	小型人工衛星～ますます身近になる宇宙開発～	12人
2	2011.8.22	佐藤奈穂子 ^a	12mパラボラアンテナの見る宇宙	16人
3	2011.9.21 (10/5に延期)	石塚 亙 ^a	コーヒーカップの隣の宇宙	9人
4	2011.10.28	横山 正樹 ^a	歴史の中の太陽	22人
5	2011.11.25	尾久土正己 ^a	私たちは宇宙でひとりぼっちなのか？	18人
6	2011.12.19	中串 孝志 ^a	あなたはどの惑星探査計画を仕分ける？～「惑星への夢」の適正価格～	16人
7	2012.1.20	秋山 演亮 ^a	宇宙教育研究所のお仕事	11人
8	2012.2.24	富田 晃彦 ^a	街中で夜空を見上げて宇宙を感じる方法	15人
9	2012.3.19	藤垣 元治 ^a	宇宙を測る！？	14人
10	2012.4.27	吉住千亜紀 ^a	和歌山大学で日食体験！	13人
11	2012.5.25	尾久土正己 ^a	金星の太陽面通過を見よう！	22人
12	2012.6.22	貴島 政親 ^a	人類史上最高の視力で見た宇宙！そして地球！	24人
13	2012.7.30	石塚 亙 ^a	星たちの通る道	15人
14	2012.8.29	小谷 朋美 ^a	太陽系外惑星の探知	20人

15	2012.9.24	秋山 演亮 ^a	RAIKOと小型衛星新時代	14人
16	2012.10.29	中串 孝志 ^a	火星旅行を真面目に考えてみる	12人
17	2012.11.19	佐藤奈穂子 ^a	和歌山パラボラアンテナ徒然草紙	13人
18	2012.12.20	吉住千亜紀 ^a	新エアドームでぼよん！～設備・研究紹介と簡単プラネタリウム～	10人
19	2013.1.17	富田 晃彦 ^a	保育園, 幼稚園で星の話をすると…	9人
20	2013.2.7	尾久土正己 ^a	天文学と暦	28人
21	2013.3.4	石塚 亙 ^a	宇宙を科学の目で見ると…	16人
22	2013.5.30	中串 孝志 ^a	上から降ってくるもの	19人
23	2013.6.28	貴島 政親 ^a	発見！！和歌山大学で撮影した木星写真であなたもガリレオ気分？！	13人
24	2013.7.24	小谷 朋美 ^a	UNIFORM:和歌山大学12m・3mアンテナを使った衛星運用	12人
25	2013.8.26	吉住千亜紀 ^a	大人の夏休みの宿題ーおすすめの星の本は？ー	10人
26	2013.9.25	古屋 昌美 ^{ab}	中秋だけではない？”お月見いろいろ”	19人
27	2013.10.31	佐藤奈穂子 ^a	SETIって知ってますか？	15人
28	2013.11.21	富田 晃彦 ^a	火星人はこうやって生まれた！学童保育の子どもと見た火星！	10人
29	2013.12.26	吉住千亜紀 ^v	今年, 何を見ましたか？～涙のエチオピア日食報告ほか～	11人
30	2014.1.27	秋山 演亮 ^a	太陽系大航海時代	22人
31	2014.2.21	矢動丸 泰 ^{ac}	宇宙は広いな♪大きいな♪	18人
32	2014.3.26	尾久土正己 ^a	Unusual destination？地球の果てへ, そして宇宙へ	15人
33	2014.5.20	廣井 孝弘 ^d	はやぶさ計画で日本の国益を守った私の戦い	20人
34	2014.5.24	尾久土正己 ^a	ロケットランチ～種子島からH-IIAロケット打ち上げ生中継～	15人
35	2014.6.26	小谷 朋美 ^a	UNIFORM-1号機～運用までの道のりと実際の運用について～	22人
36	2014.7.25	吉住千亜紀 ^a ・ 林 美由貴 ^e	夏休みに星を見よう～夏の夜の楽しみ方講座～	21人
37	2014.8.27	石塚 亙 ^a	宇宙を測る	12人
38	2014.9.8	井上 毅 ^f 中串 孝志 ^a	月と音楽, そしてサイエンス	33人
39	2014.10.16	富田 晃彦 ^a	きみもハーシェルになろう	13人
40	2014.11.7	神山 徹 ^g	UNIFORMが見る地球	17人
41	2014.11.27	中串 孝志 ^a	あなたが作る「宇宙ミッション・来たる10年ロードマップ」	12人
42	2014.12.26	吉住千亜紀 ^a	南米チリのアルマ望遠鏡を見てきました！	11人
43	2015.1.13	秋山 演亮 ^a	宇宙教育研究所とUNIFORMプロジェクトの成果	14人
44	2015.2.12	古屋 昌美 ^h	アジアの星のものがたり	20人
45	2015.4.25	尾久土 正己 ^a	100年の時を越えて～山崎邸から宇宙を望む	20人
46	2015.5.29	尾久土 正己 ^a ・ 吉住 千亜紀 ^a 外	私たちは見た！最北の島から皆既日食報告	14人
47	2015.6.23	吉住千亜紀 ^a ・ 東 悦子 ⁱ	和歌山移民たちが見た星空	10人
48	2015.7.15	矢動丸 泰 ^{a,c}	誕生, 成長(進化), そして…～僕らは星の子ども～	15人
49	2015.8.18	吉住千亜紀 ^a ・ 後藤 千晴 ^j	夜空の動物たちに会いに行こう！	11人
50	2015.9.23	吉川 真 ^k	太陽系小天体へのアプローチ	20人
51	2015.12.3	富田 晃彦 ^a	寒い冬こそ星空を見よう！	18人
52	2016.1.21	中串 孝志 ^a	祝・金星到着！あかつきくん・きんせいちゃんと占う2016年	14人

a和歌山大学宇宙教育研究所, bかわべ天文公園, c紀美野町立みさと天文台, d米国ブラウン大学, e自然教育企画 南風舎, f明石市立天文科学館, g独立行政法人産業技術総合研究所, h伊丹市立こども文化学館, i和歌山大学紀州経済史文化史研究所, j和歌山大学地域連携・生涯学習センター, k宇宙航空研究開発機構

4. 参加者アンケートより

これまでの宇宙カフェ参加者は平均16人／回、のべ825人にのぼる。参加者には毎回アンケートを実施しており、その結果を図4～8に示す。図4より、現在までの宇宙カフェ参加者の男女比はほぼ半々であった。2012年度の報告¹⁾では男性が約7～8割、女性が2～3割であったため、2013年度以降女性の参加率が上がっていることがわかる。図5に年度ごとの男女の参加者数を示す。2013年から14年にかけて女性参加者が急増している。さらに詳しくみていくと、2013年1月に会場が和歌山大学まちかどサテライトから街中のカフェに移った回に初めて女性参加者が半数を上回っていた。その後は回によってばらつきはあるものの、平均して男女比が等しくなっている。2014年には全12回中10回で女性が半数以上となった。特に女性参加者が多かった回の特徴は、学外ナビゲーター、野外で行うなどの新しい企画、神話や風習など文化的な話題であった。カフェという気軽に入れる会場と身近な話題が宇宙に対する敷居を下げ、目新しい企画や話題が女性参加者の好奇心を刺激しているのではないと思われる。参加者の年齢層は12年度と大きく変わらず、おおむねどの世代からも参加されている（図6）。図7には参加者の参加動機を示す。カフェの名前の通り、宇宙に興味があって参加しているという意見が4割に上るが、約3割はテーマに惹かれて参加していることがわかる。これは主催者がタイムリーな話題や日常では聞く機会のない話題など参加者の興味を引きやすいテーマを設定できているためと考えられる。最後に図8に参加者の満足度を示す。「非常に満足」「おおむね満足」を合わせると9割以上が宇宙カフェの内容に満足している。前回の報告では、専門家との距離が近くコミュニケーションが取りやすい点で満足度が高かった。ここ数年では他分野とのコラボ企画や学外の実験者を招いての特別企画、屋外やデジタルドームシアターなど趣向を凝らした企画に対する満足感や、これらの企画を同じ趣味の仲間と一緒に楽しめることに対する満足感の声が聞かれるようになった。一方で、内容が専門的すぎて理解しづらいと言った意見や、会場によっては狭くナビゲーターを見ることができない、音響が悪く声が聞き取りにくいと言った声もあった。内容については、ナビゲーターに参加者が理解しやすい言葉を選んでもらうよう事前に打ち合わせする、ナビ

ゲーターと参加者の間を橋渡しするファシリテーター役を置くといった工夫も今後行っていきたい。会場については、必ず事前に下見をして十分な広さが確保できること、店内の音響および外からの音の大きさなどを確認するとともに、参加者数の調整も行っていきたい。

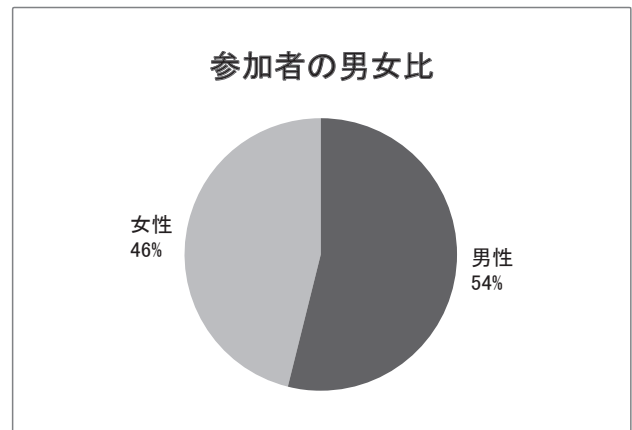


図4 参加者の男女比

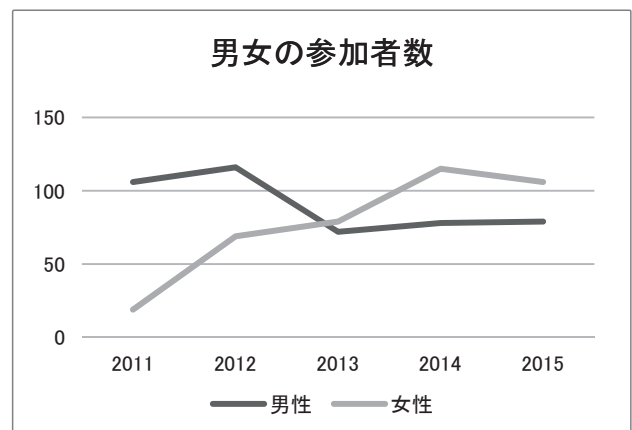


図5 年度ごとの男女の参加者推移

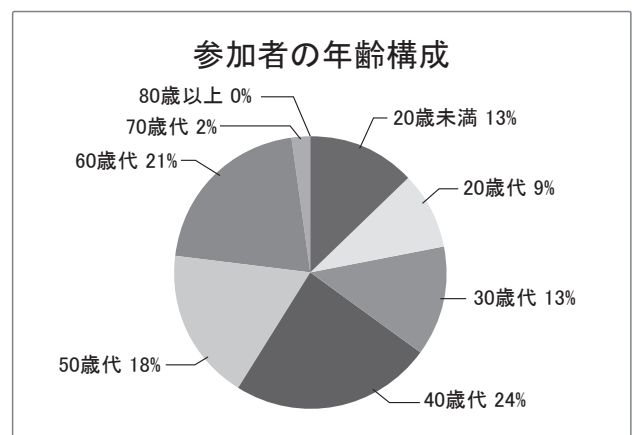


図6 参加者の年齢構成

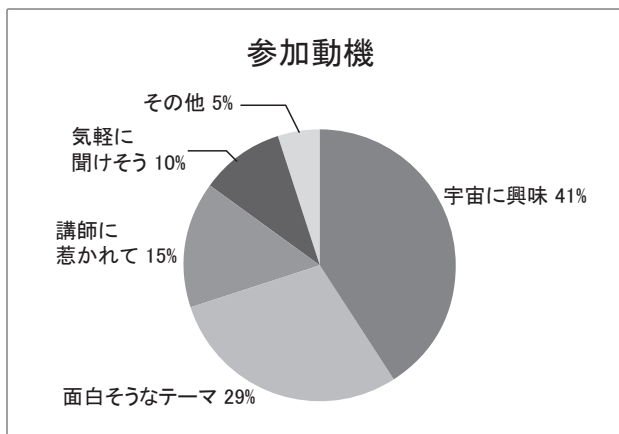


図7 参加者の参加動機

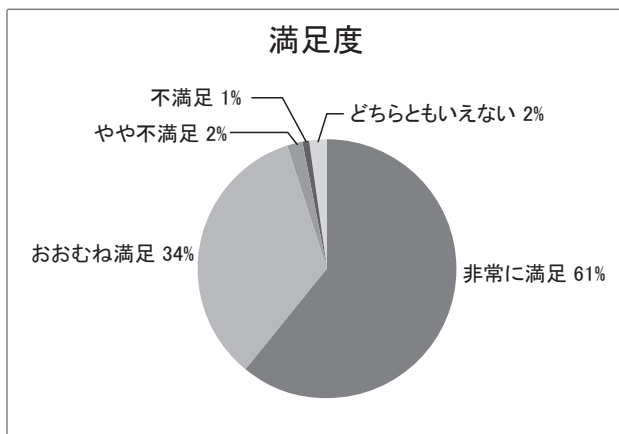


図8 参加者の満足度

5. まとめ

50回時に行った特別アンケートでは、カフェに参加する動機としては、知識をもっと深めたいという人が半数以上であった。そのほかカフェの雰囲気が好きであったり、同じ趣味を持つ人とのコミュニケーションが求められていた。不定期開催になった場合の希望開催頻度を調査したところ、7割以上が3カ月以内に1回の開催を希望した。さらにほかのワダイノカフェ^[4]に参加したことのある人は約2割にとどまり、「宇宙」というわかりやすいテーマで、月に1回の開催を約5年継続したことで同じ趣味を持つ人のコミュニティが成立していることが伺えた。魅力あるテーマとそれを提供できるナビゲーターの存在が必要であることはさることながら、参加者の熱意と知識欲、しいては、このコミュニティの成立が宇宙カフェを50回に渡り継続してこられた秘訣ではないかと考える。これは和歌山大学が自らの資源を活用し、小さいながらも地域に一つのコミュニティを形成することに寄与した一例となったと考える。また、これまでのノウハウやネットワー

クが「お月見カフェ」のように学生教育に寄与することができたことも大きい。今後は他分野のカフェも合わせた「ワダイノカフェ」に統合することで、さらに他分野との連携を深めながら参加者の知的好奇心を高め、地域のコミュニティとして根付くよう努めたい。またそのコミュニティに学生が参加し地域の中で学生を育てていきたいと考える。

注

- [1] 和歌山大学まちかどサテライトは大学事務局機能の一元化を目指して、2012年11月30日をもって事務室機能を地域連携・生涯学習センターに移転している。サテライトで実施してきた事業はすべて、2013年度以降は地域連携・生涯学習センターの一事業として実施されている。ここでは移転前後にかかわらず、すべて「まちかどサテライト」の表記で統一する。
- [2] まちかどサテライトウェブサイト「宇宙カフェ50回のまとめ」<http://www.wakayama-u.ac.jp/machikado/cosmiccafe-50times.php> (2016.1.27最終閲覧日)
- [3] まちかどサテライトウェブサイト「宇宙カフェ盛況」<http://www.wakayama-u.ac.jp/machikado/2011/02/post-2.php> (2016.1.14最終閲覧日)
- [4] ワダイノカフェは「宇宙カフェ」「歴史かふえ」「情報デザイン」など、さまざまなテーマのカフェの総称である。

引用・参考文献

- 1) 後藤千晴, 吉住千亜紀, 「地域と大学をつなぐ『宇宙カフェ』」, 和歌山大学宇宙教育研究所紀要, 第2号, pp.35-38, 2013年3月
- 2) 尾久土正己, 中串孝志, 中西豊, 松田冴加, 小林宏子, 「ファッションと科学の新しいコミュニケーション」, 和歌山大学生涯学習教育研究センター年報, 第8号, pp.28-33, 2010年3月